

小 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目次

I	研究主題設定の理由	1
II	目指す児童像	2
III	研究の視点	2
IV	研究仮説	2
V	研究方法	2
VI	研究構想図	3
VII	研究の視点の図の解説	4
VIII	一連の活動のつながりと視点との関係図	5
IX	研究の手だて	6
X	手だてと変容	7
XI	実践報告	14
X II	一連の活動の流れと手だての関係図	20
X III	アンケートの結果と分析	21
X IV	成果と課題	23

研究主題

よりよい人間関係を築き、すすんで生活づくりに 参画する児童を育成する特別活動 ～振り返りを大切にし、次につなげる学級会指導の工夫～

I 研究主題設定の理由

近年加速するグローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、急速な情報化や技術革新は身近な生活を質的に変化させつつある。一例として、人口知能の躍進は、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかという予測も示されている。このような変化の激しい環境の中でも、状況を判断し、自ら目的を設定し、課題に対して多様な他者と協働し目的に応じた解決策を見いだす力を身に付けさせていくことがこれからの教育に求められている。

これまで、特別活動における集団活動は、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成へとつながり、各学校の特色ある教育活動の展開を可能としており、このような特別活動は、我が国の教育課程の特徴として、海外からも高い評価を受けている。

一方で、「高校生の生活と意識に関する調査報告書－日本・米国・中国・韓国の比較－」（国立青少年教育振興機構 平成 27 年 8 月）によると、米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という主体的な「社会参画意識」が相対的に低いという現状が明らかになっている。本教育研究員の学校において意識調査を実施したところ、「学級・学校をよりよくしようと行動している」と考える児童は 36%という結果になり、学級・学校をよりよくしていこうとする「社会参画意識」の育成に課題があることが分かった。

また、平成 32 年度に全面実施される新学習指導要領における特別活動の目標では、多様な他者と協働する意義の理解や、集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし解決していく力を育むこと、自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己実現を図ろうとする態度を養うことを示している。

このような社会的な背景や児童の実態の中で、新学習指導要領に示されている目標を達成するためには、児童が自らの生活を振り返って課題を見だし、他者と協働しながらよりよい人間関係や生活をつくろうとする資質・能力を育む必要があると考えた。そこで、本研究では研究主題を「よりよい人間関係を築き、すすんで生活づくりに参画する児童を育成する特別活動 ～振り返りを大切にし、次につなげる学級会指導の工夫～」と設定した。また、学級会は、学級や学校の課題を自分たちで見だし、解決しようとする活動として、特別活動の中心となる教育活動である。そこで、学級活動における学級会と決めたことの実践の後における振り返りに焦点を当てた授業改善を行うこととした。振り返りの中で、児童は、現状から課題を発見し、新たな目標を立て、一連の活動を改善する。このような中で、ねらいに基づいた児童の言動を価値付けて共有し、多様な個性を認めて生かそうとする態度を養い、児童が自らのよさを発揮できるようにしようと考えた。

本研究では、「よりよい人間関係」と「すすんでよりよい生活づくりに参画する」の児童像を以下のように捉えた。

「よりよい人間関係」とは	「すすんでよりよい生活づくりに参画する」とは
<ul style="list-style-type: none"> ○自他のよさや個性を認め、生かしていく。 ○自分の思いや考えを素直に表現していく。 ○互いを信頼し、一人一人が活躍していく。 ○自分の役割を果たし、協力し合っていく。 ○全員が同じ目標に向かって活動していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や身の回りのことに <ul style="list-style-type: none"> ①課題を見いだす。 ②課題の解決策を考え、実行する。 ③次の活動や場面に生かす。

II 目指す児童像

- ・多様な個性を認めて生かし、自らのよさを発揮しようとする児童
- ・振り返りから次の目標を立て、すすんでよりよい生活をつくろうとする児童

III 研究の視点

研究主題を踏まえ、振り返りの工夫に関する二つの視点を設定し、研究を進めていくことにした。

視点1 振り返りの視点の明確化

「何を」、「何のために」振り返ればよいのか事前に振り返りの視点を明確にすることで、児童は自他に目を向けめあてを意識して活動できるようになる。そして、振り返ったことを次の活動に生かす一連の活動を繰り返すことで、振り返りから次につながる目標を立てることができるようになると思った。

視点2 教師の価値付けと共有

教師が児童の言動を価値付けることで、児童は物事を多面的・多角的に捉えられるような新たな見方・考え方を発見できる。そして、価値付けたことを全体で共有し、振り返ったことを全体で交流することで、自分や友達のよさに気付き、振り返りから新たな課題を見だし、よりよく改善していこうとする意識を高めるようになると思った。

IV 研究仮説

研究の視点を追求していくことで、研究主題に近付けると考え、以下を仮説とした。

学級活動で教師が振り返りの視点を明確にし、児童の言動を価値付けて共有する一連の活動を児童が繰り返すことで、多様な個性を認め自らのよさを発揮しよりよい人間関係を築き、振り返りから次の目標を立てすすんで生活づくりに参画する児童を育成できるであろう。

V 研究方法

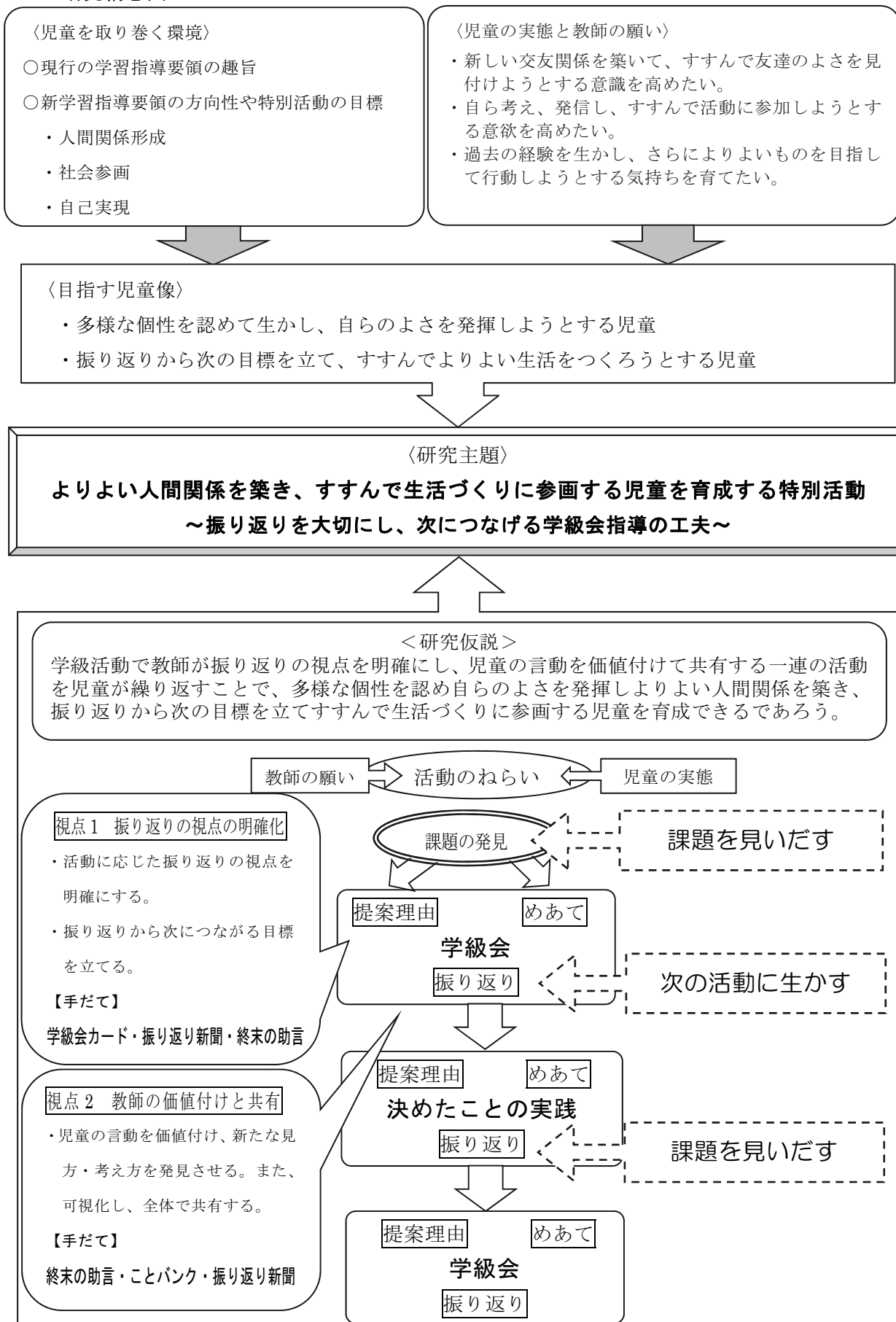
1 調査方法

- (1) 調査研究・・・質問紙による
- (2) 調査対象・・・教育研究員の所属する都内公立小学校 11校
- (3) 調査実施時期・9月上旬、12月上旬
- (4) 調査項目（21～22ページ「アンケートの結果と分析」参照）

2 研究実践

- (1) 検証授業
 - ・学級活動（1）「学級や学校の生活づくり」における検証授業

VI 研究構想図



Ⅶ 研究の視点の図の解説

1 学級活動（1）における一連の活動のサイクル

本研究では、「問題の発見」、「学級会」、「決めたことの実践」、「一連の活動の振り返り」の流れのことを「一連の活動」と呼ぶこととした。

振り返りの指導を重視し、振り返ったことを次の学級会や、決めたことの実践に生かすような指導を意図的に行うことで、一つ一つの「一連の活動」に連続性をもたせる。そのような活動を繰り返し積み重ねていき、自ら課題を見いだしてよりよく改善しようとする資質・能力を育もうと考えた。

2 一連の活動のつながりへの研究の視点の位置付け

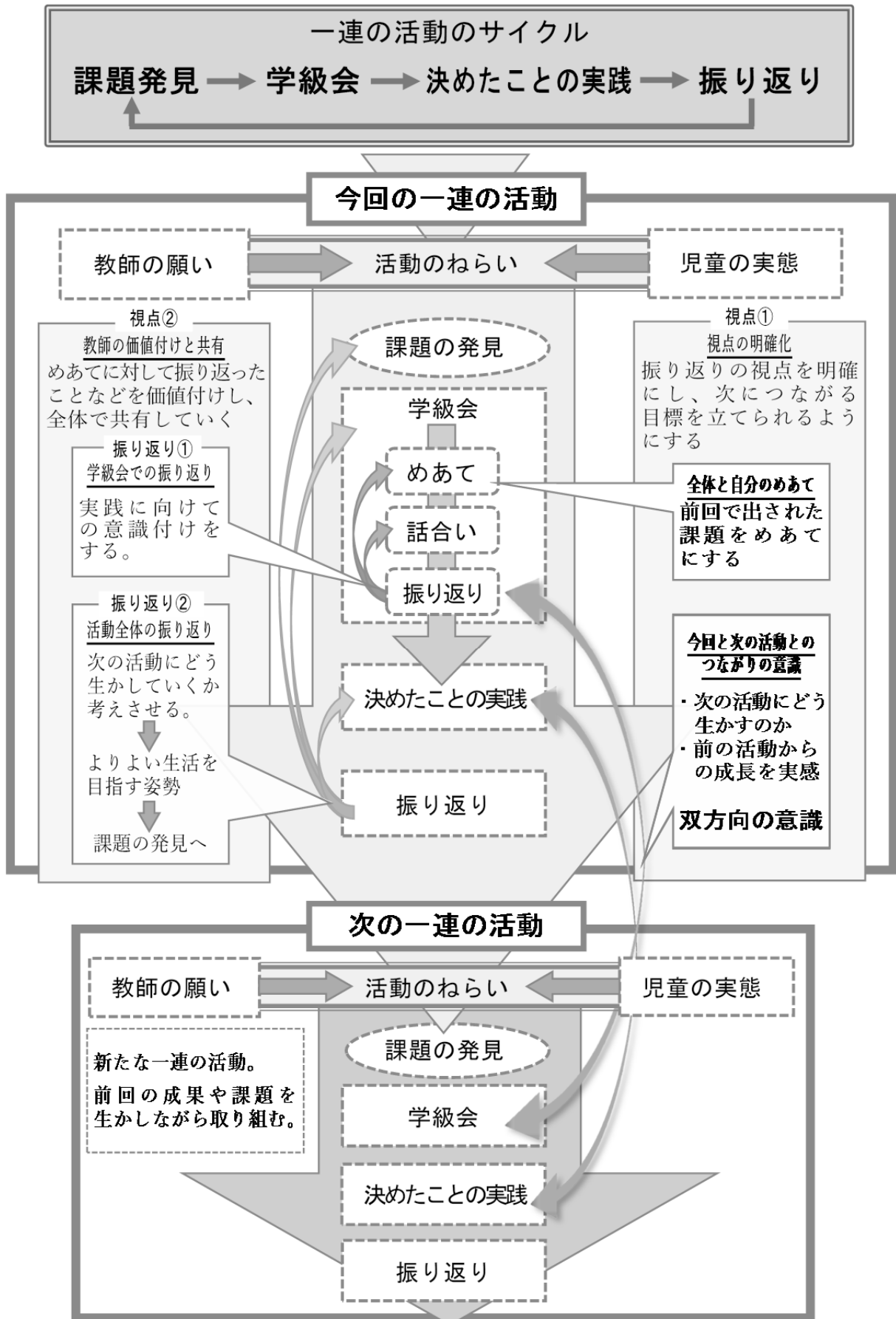
本研究の視点の一つである振り返りの場面は、「学級会の最後」と「一連の活動の最後」の2ヶ所に設定する。「学級会の最後」の振り返りでは、自分や友達のよさを書いたり、次の学級会や決めたことの実践に向けてめあてを立てたりする。「一連の活動の最後」の振り返りでは、解決する課題や学級会のこと、話し合っただけ決めたことの実践について振り返る。その際に、振り返るための明確な視点を示し(視点 1)、次につながる目標を立てられるようにする。そして、めあてに対して振り返ったことを価値付けし、共有することで(視点 2)、実践に向けての意欲付けをしたり、次の活動にどのように生かしていくか考えさせたりする

また、振り返りは、今回の学級会や一連の活動の成果や課題のみを考えるだけでなく、「前回－今回－次回」の一連の活動同士のつながりを意識させる。

3 一連の活動の流れと手だての関係性

- (1) 「終末の助言」は、児童が物事を多角的・多面的に捉え、新たな見方・考え方を発見することを目的としている。そのため、児童が学級会の最後に十分に振り返った後に行う。ここでは、課題を問い掛けるように助言を行うことで、教師からの一方的な課題の提示ではなく、双方向の会話の中から価値を見いだせるようにする。また、活動のねらいを意識した助言も行い、実践を通して課題を解決していこうとする意欲を高めていく。
- (2) 「ことバンク」は、相手のことを思いやる発言や行動をしたり、よりよい話合いにしていこうとする意識を育てたりすることを目的としている。教師は「ことバンク」によって掲示する内容を変更したり入れ替えたりするなど、学級の実態に応じて意図的に掲示することが必要である。
- (3) 「振り返り新聞」は、振り返りの内容や一連の流れを可視化することが目的であるため、活用の場面が多岐に渡る。前回までの新聞には、学級会と決めたことの実践における振り返りが記載されている。課題を発見する場面から、学級会、決めたことの実践、振り返りまでの一連の活動の全てで活用することができる。
- (4) 「学級会カード」は、振り返ったことを次の学級会や実践で生かして活動できるように、「全体・個人のめあて」を踏まえた「振り返る項目」になるように設定する。学級会后、振り返ったことを必ず教師が価値付け、学級全体で共有し、次の一連の活動のめあてにつながるようにする。また、児童はカードをファイルに綴じて積み重ね、いつでも振り返られるようにすることで、自分や友達の成長やよさを実感したり、新たな課題を見いだしたりできるようにする。

Ⅶ 一連の活動のつながりと視点との関係図



Ⅸ 研究の手だて

本研究では、児童が自ら生活を振り返り、課題を見いだして目標を立てて改善していく活動を繰り返すことで、よりよい人間関係を築くとともに、すすんで生活づくりに参画していくための資質・能力が育つと考えた。そのために、振り返りを大切に、教師が意図的に「振り返りから課題を見だし、次のめあてを立ててよりよく改善する」活動を児童に体験させ、学びを積み重ねていくために以下の4点の手だてを考案し、検証授業を重ねることで研究を進めた。

1 人間関係や話し合いをよりよくする「終末の助言」(p7)

活動の終末に行う助言は、話し合い活動や集会活動などが終わった後に行う。教師が特に大切にしたい指導の場である。教師が児童の言動を価値付けたり、多角的・多面的な視点から課題を提示したりする。

○手だてを設定したねらい

- ・活動のめあて、振り返りの視点の明確化による児童の言動の評価、共有
- ・振り返りの新たな視点の提示による、児童の多面的・多角的な思考の促進
- ・自分や友達、集団のよさに気付かせるための、振り返りの内容の共有

2 ことバンク (p8.9)

学級会における児童の一連の活動の中で、よりよい人間関係の形成や話し合いにつながる言動を価値付け、児童によりよいモデル提示する。

○手だてを設定したねらい

- ・学級会における、よりよい人間関係の形成やよりよい生活づくりに関わる児童の言動の価値付け、可視化、共有
- ・話し合いの組み立てや合意形成、進行に関わる言動の価値付け、可視化、共有

3 活動の振り返り新聞 (p10.11)

毎回の一連の活動の積み重ねを示し、振り返りから課題を見いだしてよりよく改善していくようとする資質・能力を育てる。

○手だてを設定したねらい

- ・振り返りから次のめあてを立て、よりよい生活をすすんでつくろうとする意識の育成。
- ・前回の活動を振り返って見いだした成果や課題の可視化、共有
- ・今回の活動のねらいや、振り返りの視点の可視化、共有

4 学級会カードの工夫 (p12.13)

学級会カードは毎回の話し合い活動において話し合いのめあてや振り返りを記入し、記録するツールである。振り返る項目に「自分が頑張ったこと」「友達のよかったところ」「次の学級会のめあて」「決めたことの実践に向けためあて」を繰り返し記入させることで、自他のよさを認め合う意識や、振り返ったことを次に生かす資質・能力が育っていくと考えた。

○手だてを設定したねらい

- ・自分のめあてに対して振り返ることによる自身の成長の確認
- ・学級会全体について振り返ることによる、学級集団や友達のよさ、次回の課題の発見
- ・学級会で決まったことを受けた、活動の向けためあての設定による、活動への意欲付け

X 研究の視点に関する手だてと児童の変容

1 【手だて1】人間関係や話し合いをよりよくする「終末の助言」の工夫

終末の助言では、主に「称賛」を二つか三つ、「課題」を一つ話し、そのときには以下の取り上げる内容と方法に留意して話すことを大切にしました。

1 終末の助言で取り上げる内容（下線は研究の視点に関わる内容）

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| (1) <u>前回から成長が見られた言動</u> | (5) 議題、提案理由、めあてに戻った発言 |
| (2) <u>司会グループの工夫、努力</u> | (6) <u>自分のめあてや前回の振り返りを生かした発言</u> |
| (3) <u>友達、学級全体のことを考えた言動</u> | (7) <u>次への成長のための気付くようにしたいこと</u> |
| (4) <u>話し合いをまとめるような建設的な発言</u> | (8) 実践、生活への意欲付け |

2 終末の助言の方法

(1) 称賛 上で取り上げた（3）の例

これからの活動に対する意欲を高め、人間関係や話し合いをよりよくする児童の言動を定着させるために、具体的な事例と名前を挙げて「どうしてよかったのか」活動のよさを認め、価値付けて学級全体に共有する。

例 T 今日Aさんが上手に説明をできずに困っていた場面がありました。その時に発言をした人がいたのですが、覚えている人はいますか？

C はい。Bさんです。Aさんの代わりに言いたかったことをみんなに説明をあげていました。

T そうでしたね。Bさんが説明してあげていました。このように困っている友達を助けてあげるとAさんもみんなも嬉しいし話し合いも上手に進みますね。

(2) 課題 上で取り上げた（7）の例

課題そのものを指摘するのではなく、話し合いの場面を振り返らせ、「〇〇の時どう思った。」「どうしたらよかったかな。」のように児童に問い掛け、児童が答えを見いだすことができるようにする。

例 T 〇〇に決まったときに、本当にみんな納得できていましたか。

C いいえ。本当はまだ言いたいことがありました。

T そうでしたか。では、これからどのようにしていけばよいと思いますか。

C 反対の人はいないか確認した方がよいと思います。

T そうですね。これからは決める時は全体にもう一度確認をして、全員が納得して決められるといいですね。

児童の変容

- ・人間関係や話し合いをよりよくする言動が学級全体に広がっていった。
- ・児童は振り返ったことから次のめあてを立て、活動が一連のつながりとなってよりよい生活をつくっていくことができた。
- ・新しい課題に出会ったときに教師の答えを待つのではなく、自分たちで話し合いながら、自分たちなりの答えを見いだせるようになっていった。

2 【手だて2】 ことバンクの活用

学級会において、よりよい人間関係の形成や生活づくりにおいて大切な言動、また、よりよい話し合いをするための言動を可視化することにより、自分たちが発言した言葉を振り返り、価値付け、共有できるようにした。

よりよい人間関係の形成に関わる言動やよりよい話し合いをするための言動を短冊化し、児童が思考を整理しやすいよう色分けした。

私も○○さんと同じで、くするのがいいと思います。	○○さんの言いたいことは、言い換えるとくだと思います。	くと言いましたが、みんなの意見を聞いてくが考えが変わりました。	○○さんの話がなくなっちゃったので話を戻しましょう。	今はくについて話しているので話を戻しましょう。	他についても、前と同じようにくした方がいいですよ。	くを工夫して変えるのはどうしてですか。	くは反対ですが、くに変えれば賛成です。どうですか。	さつきみんなでくすると決めたので話を進めましょう。	すぐにできるもの時間のかからないものは決めましょう。
確認した方がいいですよ。	○○さんの意見に加え、くすればいいと思います。	さつき、○○さんがく言っていたので確認した方がいいですよ。	決めたくの中にくを入れると多くの意見のよさが生かれます。	司会さんが意見をまとめて説明した方がいいです。	くについて解決策があるのですが、くは係の時間にやって活用するのがいいと思います。	賛成の数でなく、どれだけ提案理由に合っているかで決めましょう。	くは係の時間によって活用するの	れば大丈夫です。	もう少し意見を聞いてから決めた方がいいですよ。

左…よりよい人間関係の形成に関わる言動
基準：よりよい人間関係 p 2

右…よりよい話し合いをするための言動

教室内の児童が見える場所に掲示しておくことで、学級会中も振り返ることができる。

学級会における児童の「よりよい話し合いをするための言動」や、「よりよい人間関係の形成につながる言動」を価値付け、教師が意図的に掲示する内容を変更する。

よい意見やがんばりへの拍手。
初めて意見が言えたね。
みんなで作ることができて楽しかった！
反応やうなずくって大切！
〇〇と同じです。
〇〇さんは〜が言いたいのだと思います。

意識してできるようになった短冊は外す。意図的に内容を変更することで、児童が活用しやすくする。

繰り返し活用していくことで、「ことバンク」で取り上げた児童の言動の質が高まった。

みんな準備すると早いね。
とりあえず、まずはやってみよう。
〇〇改善すれば、賛成できる。
〇〇は休み時間にやろうよ。
提案理由を意識しよう。
あとのの間をとると。
〇〇の意見に心配な人はいますか。
「もし〇〇だったら、〇〇かもしれない。」は使わない。

合意形成の際に、ことバンクの言葉を使用する児童が増えた。

教師が価値付けることで、進捗が円滑に進むような言葉を積極的に考えるようになった。

児童の変容

短冊を教室内に掲示し可視化することで、話し合い中に短冊を見て、その場面や話し合う内容に合った言葉を意識しながら発言するようになった。

教師が育てたい人間関係形成や話し合いのスキルの視点を明確にし、振り返りでも『ことバンク』の内容に触れて価値付けることで、合意形成に必要な言動を積極的に考え、発言する児童が増えた。

話し合い活動の中で使用した言葉が、友達との関わりや学校生活の中でも生かされるようになった。

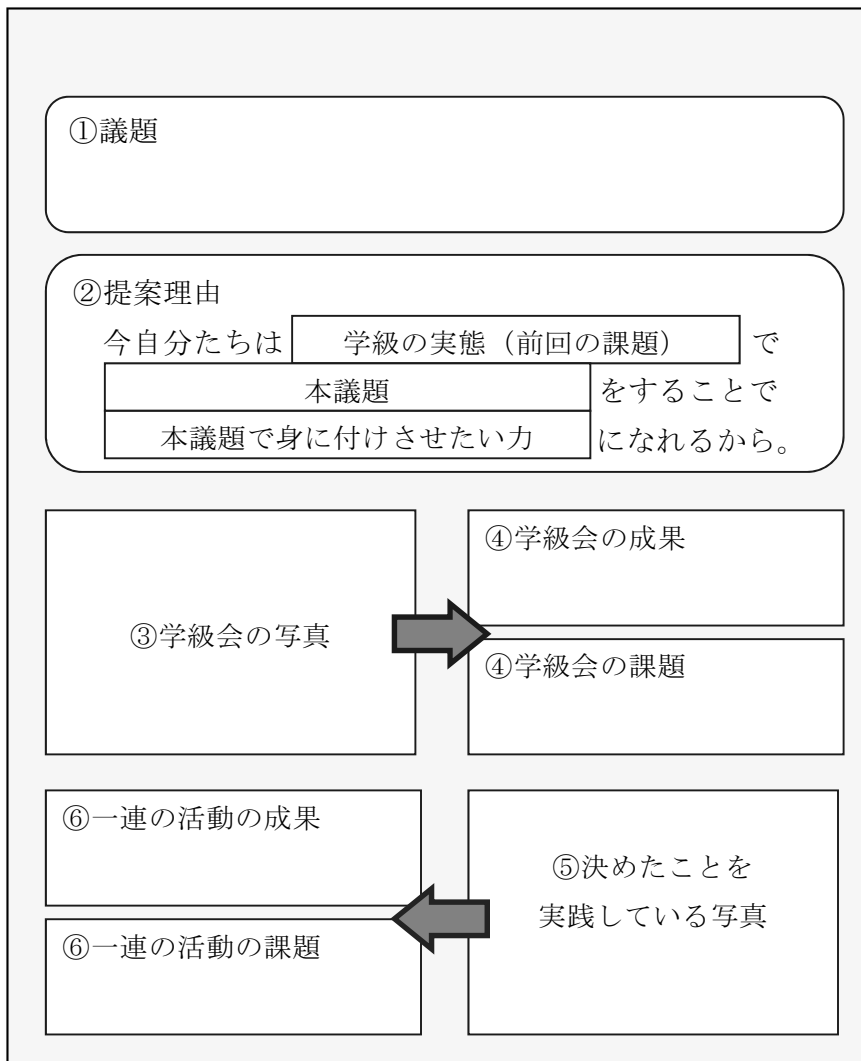
3 【手だて3】一連の活動の成果と課題を「新聞」にまとめて掲示する

課題設定から振り返りまでの一連の活動を通して身に付けさせたい力を明確にし、その成果と課題をまとめたものを可視化することで、一つ一つの議題に対して「つながり」をもたせ、児童にこれまでの学びの積み重ねを生かして、新たな議題に取り組みさせるようにした。

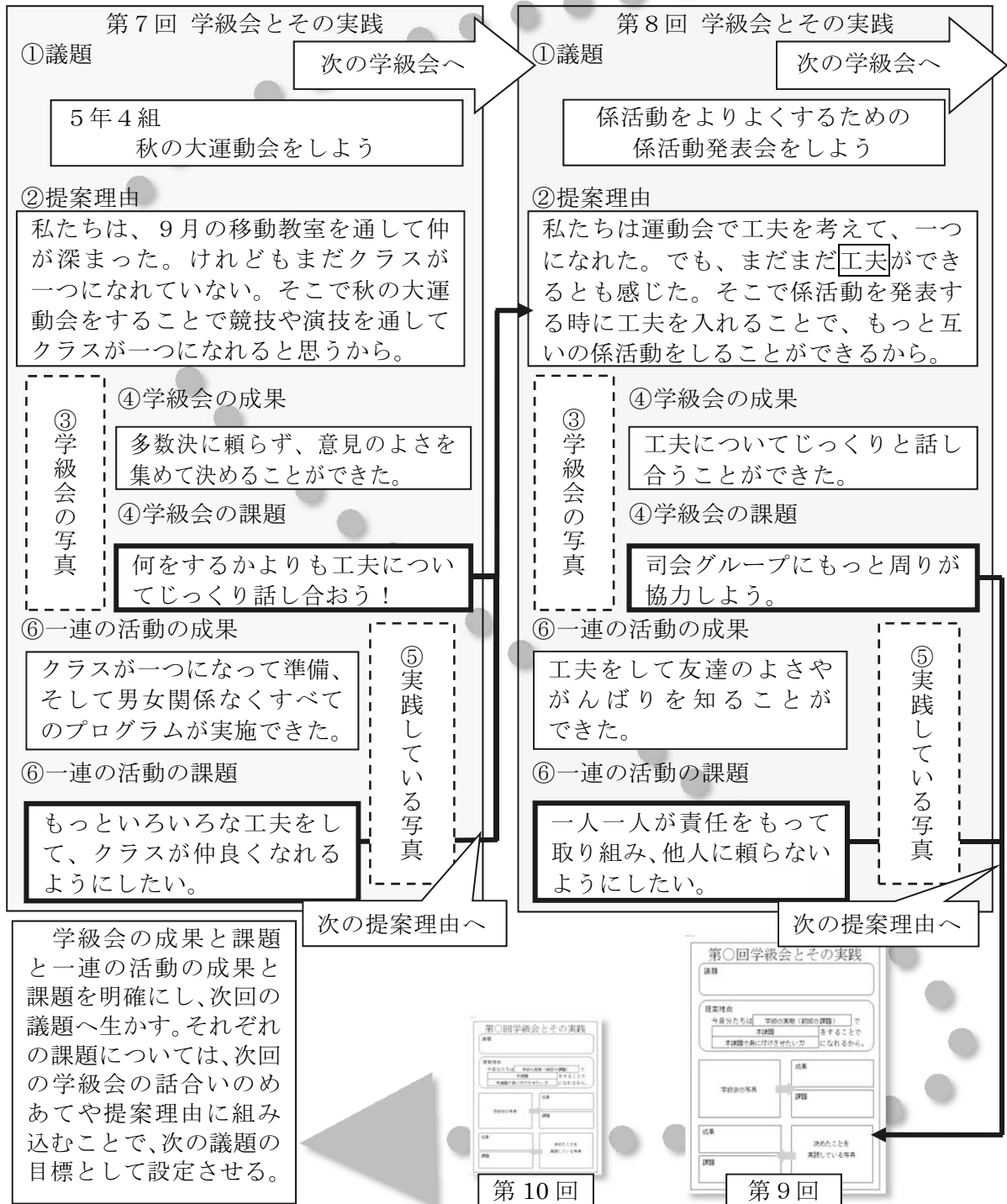
新聞に記載したもの

- ①議題
- ②提案理由
- ③学級会の写真
- ④学級会の成果と課題
- ⑤決めたことを実践している写真
- ⑥課題設定から決めたことの実践までの一連の活動を通じた成果と課題 等

新聞作成例



新聞作成によって、議題に対して「つながり」をもたせ、児童にこれまでの学びの積み重ねを生かして取り組ませるための工夫（以下実践例）



児童の変容

学級会中の児童の発言に「前回の学級会では〇〇だったから、今回は〇〇にしたい」というこれまでの学びを生かしたのが見られるようになった。

前の議題と次の議題に「つながり」が生まれ、前の議題で共有した課題を次の議題を通し、学級全体で解決していこうとする児童の意識が高まった。

4 【手だて4】学級会カードの工夫

(1) 振り返りの内容項目

振り返りの内容項目

① 自分の頑張ったこと
② 友達のよかったこと
③ 次の学級会のめあて
④ 決めたことの実践のめあて

学級会カードは発達の段階に合わせての3種類用意し、それぞれの振り返りは、全て記述するものと、めあての振り返りのみ記号で選択するものとした。

学級会カード【選択式】
(入門期の学級会カードも同様のものを用意した。)

No.	氏名	性別	年齢	学年	学級会カードの種類	振り返りの内容	振り返りのめあて

☆振り返りましょう☆

①自分や友達のよかったこと

他の人の意見を大切にしてみました。次の学習では、もう少し提案理由にそって考えたいと思いました。

☆振り返りましょう☆

①自分や友達のよかったこと

〇〇さんの発表は、理由をしっかりと言っていたので分かりやすかったです。わたしも理由をきちんと言えるようにしたいです。

自分のことだけでなく、友達の意見のよさへの気付きにもつながった。

振り返りの視点を明確にすることで、めあてを意識した活動ができた。

児童の変容

自分自身の振り返りだけでなく、友達の意見のよさについても見付けていこうとする姿が見られ、そのことが互いのよさを認め合っていこうとする関係を築くことにつながった。また、次の活動に向けての意欲付けにもつながった。

- 12 -

(2) 一連の活動を意識した振り返り

学級会カード(すべて記述式)

議題	提案理由	話し合うこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと

すべての学級会カードに「決めたことの実践のめあて」だけでなく、「次の学級会のめあて」について書く欄を設けた。今回の活動についての振り返りと同時に、次の活動のめあてについて考えることを繰り返すことによって、一連の活動でつながりを意識できるようにした。

議題	提案理由	話し合うこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと
第九回 学級会カード	六年二組ミニ運動会をしよう	小学校生活最後の運動会が近づいてきたので、六年二組の運動会を開いて、みんなの楽しい思い出を出す。	・反対意見だけでなく代わりの思い出になる内容にしよう。	・十一月九日(木)5時開会	危険な内容(組体操や騎馬)	話し合うこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと
第十回 学級会カード	卒業文集のクラスページについて決めよう	あと四か月で小学校生活が終わってしまうので、六年二組のみんなのよさがあふれる卒業文集を作って思い出に残したい。	・一人一人の意見を大切にしよう。	・六年二組のよさがあふれるクラスページにしよう。	話し合うこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと	話し合ったこと

次は賛成意見もたくさん出したいです。

みんなを納得させるための条件付き賛成に気付いた。

みんなが納得するような意見を出す。

児童の変容
 これまでは、活動の初めにめあての設定を行っていたため、前回の活動の振り返りが生かされることが少なく、明確な根拠のないめあての設定になっていた児童が多かった。活動の振り返りの際に、次の活動への課題発見をすることができ、そのことをめあてとすることで、一連の活動につながりが見られる記述が増えた。

XI 実践報告

第1回 検証授業 (平成29年9月28日)

議題	えがおで やさしい てんらん会をせいこうさせよう
提案理由	前回の「ミラクルマラソン大会」では、クラスみんなを応援したり一緒に走ったりして仲が深まった。今度は1組の友達の良いところや、好きなところをほめ合って、もっと優しくて仲良しなクラスになるような「展覧会」をしたいから。
話合いのめあて	○よいところが分かるような工夫を決めよう ○全部の意見について話し合おう (前回の学級会の振り返りから設定)
話し合うこと	優しくて仲良しなクラスになるような「展覧会」にするためにどんな工夫ができるか
議題選定の理由	
<p>学期始めに、2学期に学級会で話し合いたいことはないか呼びかけた。集まった議題の内容と取り扱いを担当が事前に確認した後、帰りの会で学級会の計画を話し合っただけで決めた。今学期、学級会で取り上げない提案については、係にお願いしたり休み時間に行うようにしたりするなどして、提案した児童の気持ちをできるだけ尊重するよう伝えた。</p> <p>絵を描いたり折り紙を折ったりすることが好きな児童が多くいる中で、芸術の秋に関連して、教室に作品を飾ったり教室を飾ったりして展覧会を開きたいという意見が複数の児童から挙がった。9月初頭にも夏休みの自由研究を友達同士で褒め合う姿が見られた。自分以外の他者に対する関心が芽生えつつあるこの時期に、今回の活動を通して互いの作品のよさを褒め合ったり、認め合ったりする活動を楽しみ、学級の人間関係がより温かいものになるようにしたい。</p>	
事前指導	
<p>【視点① 振り返りの視点を明確化】</p> <p>○事前に振り返りの視点が分かるように学級会カードを記入させる。 ○学級会カードに「活動に向けてがんばりたいこと」を記入させることで、話し合ったことを振り返り、次の活動に生かすことを意図的に取り入れる。</p> <p>【視点② 教師の価値付けと共有】</p> <p>○学級会での振り返りと、活動の振り返りを新聞の形でまとめ、よかったことと課題点を色別に表示したり、話合いを進める言葉と、よりよい人間関係を築く言葉を分類して掲示したりすることで振り返りの価値付けと共有を行う。</p> <p>【計画委員会】</p> <p>9/21(木) ○議題・提案理由・めあてを決める。 9/22(金) ○学級会コーナーに議題・提案理由・めあてを掲示する。 ○事前に意見を募集する。 9/25(月)～27(水) ○集まった意見を分類して学級会コーナーに掲示していく。 9/26(火) ○話合いの進め方について相談し、計画カードを書く。</p>	
本時の様子	
話合い	指導の工夫と児童の様子
<p>優しくて仲良しなクラスになるような「展覧会」にするためにどんな工夫ができるか</p> <p>【全体の工夫】</p> <p>○教室に飾り付けをする。</p> <p>【ほめ合う工夫】</p> <p>・ほめ合うカード。 →言葉で伝える時間をつくる。</p> <p>○みんなに賞をあげる。</p> <p>【友達の良いところが分かる工夫】</p> <p>○自分の好きなものが分かるような作品にする。 →見る人にも分かるように作品の説明を自己紹介カードに書く。 ・自分の好きなところを言う。 →自己紹介カードに書く。 ○自己紹介カードを付ける。</p>	<p>【終末の助言】</p> <p>○今回の一連の活動を通して身に付けさせたい力を教師も明確にもっておく必要性を感じた。そうすることで、「話合いのめあて」や「終末の助言」に生かすことができる。</p> <p>【ことバンク】</p> <p>○「○○さんの意見と似ていて～」など、意見をつなげる発言が多く見られた。ことバンクとして価値付け、共有したことで「使いたい」という意欲の高まりを感じることができた。</p> <p>【振り返り新聞】</p> <p>○振り返り新聞を示しながら、前回の反省を生かした発言をしている児童が見られた。</p> <p>【学級会カード】</p> <p>○役割分担まで本時で話し合うことができなかつたので、「次の活動に向けためあて」を書きにくそうにしている児童がいた。</p>

事後指導

以前の振り返り新聞に「もっと全員で準備できるようにしたい」という記述があったことを示すことで、準備を忘れてしまいがちな児童も声を掛け合いながら全員で準備を進めることができていた。そのような具体的な場面を見付け次第、帰りの会などを通して全員に紹介し、「ことバンク（「ぼくもてっだうよ。」）」にして掲示した。

実践の様子

はじめの言葉では、「みんなのよいところをたくさん見つけようね」という言葉から始まり、一人一人が持ち寄った「自分の好きなことが分かるような作品」と作品の説明や自分のことを書いた「自己紹介カード」、「自分が海の生き物になったら」というテーマで作った「共同作品」を見て回っていた。ある児童が、作ってきた作品に自信がなく、粘土で作ってきた恐竜の最後を机の奥にしまってしまったが、それに気付いた他の児童が見せてもらうように頼み、見た作品を素直に褒めたことで、自信をもって周りに目を向けられるようになる、という場面が見られた。

振り返り

【学級会】

- ・全部の意見について話すことができてよかった。
- ・「もし」とか「〇〇したら」みたいなことはあまり言わないようにする方がよいと思った。
- ・友達は言っていることが分からなかったら、「もう一回言って。」と言っている人がいたので、今度は真似してみたいです。

【決めたことの実践】

- ・友達のよいところがいっぱい見付けられました。みんなの好きなこと、好きなものがよく分かった。みんなで一つの大きな作品が作れてよかったです。
- ・みんなのもっとよいところを見付けたいです。
- ・時間を見て、この時間にはこれをして、この時間にはこれをする、というような計画をきちんと立たいです。
- ・今回は、少しだけ「優しく仲良し」ができたと思いました。だから次も楽しんでやりたいです。

考察

【視点①】

前回の活動を振り返りながら話し合う児童が増えた。

終末の助言において、事前に児童にめあてを明確に意識させるのであれば、それを把握し、評価することが必要である。終末の助言についてもある程度事前に計画を立てておくことが有効であると考えられる。

【視点②】

低学年では、課題を見いだす視点を育てるためには、教師が日常的にその模範を示すことが必要である。そのため、学級会の終末の助言や、一連の活動の後に行った振り返りにおいて、教師が具体的な場面を挙げて価値付けを行ったり、価値付けたことを「ことバンク」や「振り返り新聞」のような形で残しておいたりすることで、児童に人間関係や生活をよりよくするための視点が広まっていく。

第2回 検証授業（平成29年10月10日）

議 題	3の2 オリピックをしよう
提 案 理 由	前回の「わくわく出し物をしよう」では、クラスみんなで出し物を考えて、楽しく仲良くなれた。運動会で、赤組も白組もみんなで力を合わせて頑張ったが、勝ち負けにこだわってしまったところがあったので、今度は、更にチームワークをよくして、クラスみんながもっと仲良くなれる活動にしたい。そして今よりもっとすてきなクラスにしたいから。
話 合 い の め あ て	○チームワークがよくなるような工夫を決めよう ○時間を意識して話し合おう（前回の学級会の振り返りから設定）
話 し 合 う こ と	①チームワークをよくするためにどんな工夫ができるか。 ②どんな係があったらよいか。
議題選定の理由	
<p>学級会で話し合いたいことを呼び掛けていたところ、いくつかの議題が集まった。集まった議題をもとに計画委員会を開き、話し合いを行った。運動会で一人一人が頑張ったが、学級の中に勝ち負けの意識が強くなってしまった部分があったため、今度は、クラスみんなでチームワークを大切にして取り組み、学級をよりよくしたいという思いから、今回の議題を選定した。</p> <p>今回の活動を通して、仲間と取り組むことの楽しさや友達のよさや優しさに触れながら、学級みんなの心を一つにできるような取組にしたい。</p>	
事前指導	
<p>【視点① 振り返りの視点を明確化】 ○振り返りの視点が分かるようにするため、事前に学級会カードを記入させる。 ○学級会カードに「活動に向けて頑張りたいこと」を意図的に記入させることで、児童は話し合ったことを振り返ることができ、次の活動に生かすことを意識できるようになる。</p> <p>【視点② 教師の価値付けと共有】 ○学級会や活動の振り返りを新聞にまとめ、その中でよかったことと課題点を色別に示す。また、話し合いを建設的に進める言葉と、よりよい人間関係を築く言葉を分けて掲示することで、振り返りの価値付けと共有を行う。日常的に掲示することにより、常に意識することができるようになる。</p> <p>【計画委員会】 10/3(火) ○議題・提案理由・めあてを決める。 10/4(水) ○学級会コーナーに議題・提案理由・めあてを掲示する。事前に意見を募集する。 10/5(木)～6(金) ○集まった意見を分類して学級会コーナーに掲示していく。 ○話し合いの進め方について相談し、計画カードを書く。</p>	
本時の様子	
話し合い	指導の工夫と児童の様子
<p>① チームワークをよくするためにどんな工夫ができるか。 ○休み時間にたくさん練習する。 ○練習を楽しむ。 ○助け合う。 ○円陣を組む。 ○みんなのよさを伝える。 ○声を掛け合う。 この六つに決定した。</p> <p>② どんな係があったらよいか。 下記三つの係については決定した。 ○用具係 ○ひもを結ぶ係 ○結果発表係 以下の係については意見が分かれたため、決定に至らなかった。 ○プログラム係 ○時間係</p>	<p>【終末の助言】 ○今回の一連の活動において、重点を置いて話し合いたいところを、助言により明確にさせる必要があった。そうすることで、児童が話し合う必要性を理解し、「話し合いのめあて」に立ち返って考えたり振り返ったりすることができる。</p> <p>【ことバンク】 ○「提案理由は～だから」など、提案理由を意識した発言が見られた。「そろそろ決めた方がいいのではないですか。」など、時間を意識した発言も見られた。終末の助言で取り上げて価値付けし、共有することができた。</p> <p>【振り返り新聞】 ○話し合いの中で、時々新聞を見て、前回の反省を意識しながら発言をする児童が見られた。</p> <p>【学級会カード】 ○友達同士、自分の思いを言い合えているところがよかったと書いている児童が多かった。</p>

事後指導

本時の中で、話し合いが途中になってしまったところについて、もう一度学級全体で話し合った。すると、「自分の言いたいことは言えたけど、友達の意見をもっと大切にできればよかった。」「前にもあったけど、もっと時間を意識できればよかった。」などの意見が多くあった。これらの思いを今後またみんなで大切にしながら、話し合っていくことを決めた。必要な係については、その後みんなの意見を大切にしながら、スムーズに話し合うことができた。「もっと素敵なクラスにしたいから。」という提案理由を最後まで大切にし、チームで声を掛け合いすすんで練習する姿が多くあった。係の仕事も声をかけ合いながら全員で準備を進めることができていた。

実践の様子

当日、体育館に集まると、自然にチーム練習が始まり、それぞれのチームの団結力を感じられた。司会係は慣れている様子でスムーズに進行し、それぞれの係が自分の仕事を一生懸命にやる姿があった。ムカデ競争では、みんなの心をついに前へ進むことがいかに難しいかを実感しながらも、「〇〇くん、大丈夫?」「〇〇ちゃん、頑張れ〜!」などと励まし合う姿が多くあった。勝ち負けにこだわらず、チームで協力し、仲間を大切にしようとする気持ちが強く感じられ、学級としての成長を感じた。大根ぬきでは、どのチームも一人一人が全身の力を振り絞って負けない気持ちをぶつけあい、笑顔あり笑いあり涙もありという真剣勝負をしていた。最後の結果発表では、赤組白組が同点という結果になり、歓声があがっていた。一人一人にとって、心に残る3の2オリンピックになった。

振り返り

【学級会】

- ・提案理由を意識して話し合うことができた。
- ・友達の意見を聞いて、自分の意見もしっかり言えたことがよかった。
- ・〇〇くんが「そろそろ決めた方がいいのではないですか」と言っていたことがよかったと思う。

【決めたことの実践】

- ・それぞれの種目をやっている時に、いつも応援してくれている友達がいて嬉しかった。
- ・運動会とは違う新しい赤組と白組でチームを作って、このチームも大好きだなって思った。
- ・ムカデ競争が難しかった。うまくできなかった時に、友達が励ましてくれたからあきらめないで頑張れた。クラスみんなが、前よりももっと仲良しになれたと思った。

考察

【視点①】

前回の活動を振り返りつつ、反省を生かしながら話し合う児童の様子が見られた。

振り返りの時間で、児童一人一人がめあてを達成できたかどうかについて把握し、評価することが大切である。その際の記述の仕方については、ただ思ったことを書くのではなく、どの視点についてどう書くかが重要と考える。そのためには、振り返る際の視点を教師が明確にしておく必要があり、指導・助言として働きかけていくことも大切であると考えます。

【視点②】

中学年では、児童が自分たちの力で学級における課題を見いだす視点を育てたいが、学級それぞれの実態に応じて、教師の働きかけも必要である。また、課題を見いだしてそれをもとによりよい学級にしていこうという意識が育つためには、教師が学級会の終末の助言や振り返りにおいて価値付けを行うことが大切である。さらに、「ことバンク」や「振り返り新聞」の形で掲示し、価値付けたものを共有することで、よりよい人間関係や生活を目指そうとする児童の視点が育つと考える。

第3回 検証授業（平成29年11月21日）

議題	2年生と運動会をしよう
提案理由	2年生とこれまでたくさん交流し、関係ができてきた。しかし、全員の名前を覚えることはできていない。また、以前もらった手紙のお礼もできていない。そこで2年生に楽しんでもらえる運動会を計画し、一緒に活動することで、今よりももっと仲良くなって、たくさん関わっていききたいから。
話合いのめあて	○時間内に話し合えるよう、“でも”や“かも”はなしにしていこう。 ○提案理由を意識して、2年生を最優先に考えた意見を出そう。
話し合うこと	①2年生が楽しみ、もっと仲良くなれるためにどんな競技の工夫ができるか ②競技以外に2年生が喜んでくれる活動は何か
議題選定の理由	
<p>以前より、「クラスで運動会をしたい」という願いが児童から挙がっていた。計画委員会と提案者で話し合い、「2年生に喜んでもらいたい」という意見が出てきた。そこで、「自分たちだけが楽しむのではなく、2年生ともっと仲良くなるために運動会がしたい」という思いから本時の議題になった。</p> <p>高学年としての意識が芽生え、下級生との活動を楽しんでいる学級の実態もあり、本時の議題を基に話し合い活動をすすめる。相手意識がもてる議題であり、今回の活動を通して自己有用感をより高めたい。</p>	
事前指導	
<p>【視点① 振り返りの視点を明確化するための工夫】 ○事前指導の段階で、学級会カードへ振り返りの視点が分かるよう、記入させておく。 ○話し合ったことの振り返り、前時の活動の反省が生かせるよう、学級会カード「活動に向けて頑張りたいこと」の欄へ自分のめあてを記入させる。</p> <p>【視点② 教師の価値付けと共有】 ○学級会での振り返りと、活動の振り返りを新聞の形でまとめ、成果と課題を示し、話し合いを進める上で補助となる言動と、よりよい人間関係を築く言動を分類して掲示したりすることで振り返りの価値付けと共有、また日常的に活用できるようにする。</p> <p>【計画委員会】 11/ 9(木)～10(金) ○議題・提案理由・めあてを決める。 11/14(火) ○学級会コーナーに議題・提案理由・めあてを掲示する。 ○前回の計画委員会と引継ぎをする。 11/15(水) ○集まった意見を分類して学級会コーナーに掲示していく。 11/16(木)～20(月) ○学級会カードへの記入を基に、短冊を作成する。 ○学級会ノートを作成し、話し合いの流れを想定する。</p>	
本時の様子	
話し合い	指導の工夫と児童の様子
<p>①2年生が楽しみ、もっと仲良くなれるよう競技の工夫</p> <p>【競技の工夫】 〈共通の工夫〉 ○勝っても負けても、みんなで健闘を称える。 ○2年生をみんなで優しくサポートする。 〈リレー〉 ○名前を呼んでバトンパスをする。 〈お助けつなひき〉 ○2年生を5年生が素早く助けに行く。 〈借り物競争〉 ○名前の頭文字を記入したカードを配布し、名札を頼りに2年生が5年生をゴールに連れて行く。</p> <p>②競技以外に2年生が喜んでくれそうな活動の決定</p> <p>【活動】 ○開会式で手作りの名札を配布する。 ○参加してくれてありがとうの手紙を渡す。 ○みんなで記念撮影をする。</p>	<p>【終末の助言】 ○前時からの課題がどう改善されたか、振り返り新聞や児童の振り返りを生かすことで、より連続性のある活動にすることができると考えた。</p> <p>【ことバンク】 ○本時の学習の中で、ことバンクへの意識をよりもてるようにするために、新聞への掲示だけでなく、集約したものを提示し、選択しやすくなるような掲示の工夫が必要だった。</p> <p>【振り返り新聞】 ○新聞から前回の課題の一つである「発言が少ない」から、今回の学級会の自分のめあてにする児童、また計画委員会が学級会ノートにコメントし、自信をもって発言できるように工夫するなど、意識して活動できた。</p> <p>【学級会カード】 ○5～10分程度での書くことが難しい児童がいるものの、繰り返し記入することで少しずつ全体共有ができるようになってきた。</p>

事後指導

過去の活動振り返り新聞にもあった「全員が準備することで、たくさんの活動ができることが分かった。」を特に意識させた。また、学級会ノートへの振り返り「自分や友達のよいところ」では、友達のよいところを見付けることができる児童が多くなった。これまで他に対して、あまり目の向かない児童が多かった本学級では、大きな成長となった。

計画委員会への称賛や提案者への感謝などの言葉を帰りの会等で紹介すると、笑顔で喜ぶ児童の姿が見られた。このような称賛や感謝の言葉を、学級会終了後、すぐに児童に紹介することができれば、児童の成長につなげることができる。

実践の様子

話合いの中で決まった「名札を配る」ことから始まり、お互い相手を意識した中でスタートした。2年生との関わりの中で、提案理由にもあった「名前を覚えきれていない」という課題を解決し、名前を呼び合うことで非常に温かい雰囲気になった。また、それぞれの競技では、5年生の足の速さに驚く2年生、2年生のために大きな声で応援する5年生、そうした交流からお互いに楽しんだり、仲良くなったり、そして下級生から尊敬される存在になるきっかけになった。活動後、2年生からの感想から、「〇〇さんが優しくしてくれて嬉しかった。」など、名前を覚えてもらうことができた。更に「休み時間も一緒に遊びたいです。」という感想を聞き、めあてが達成できたことを学級全体で喜び、また下級生のために活動できたことで自己有用感がより高まった。

振り返り

【学級会】

- ・〇〇さんの意見の意味が分からなかったとき、理解できるよう〇〇さんが「こういうことが言いたいんでしょ。」とフォローしてくれたので助かった。
- ・全体的にことバンクを使っている人が少なかった。自分は意識できたから、これから率先して使うことで、他の人が意識できると思う。
- ・時間がいつも課題となっている。司会グループも気付けるように、自分から声を掛けないといけない。

【決めたことの実践】

- ・感想で2年生から「楽しかった。」という言葉が聞けて、「やってよかった。」と心から思えた。
- ・クラスみんなが準備、協力できたから今日の会は成功できたんだと思う。本当に楽しかった。
- ・本当に楽しんだり、喜んだりできるときって、勝ち負けにこだわらず、自然と笑顔になれることが分かった。

考察

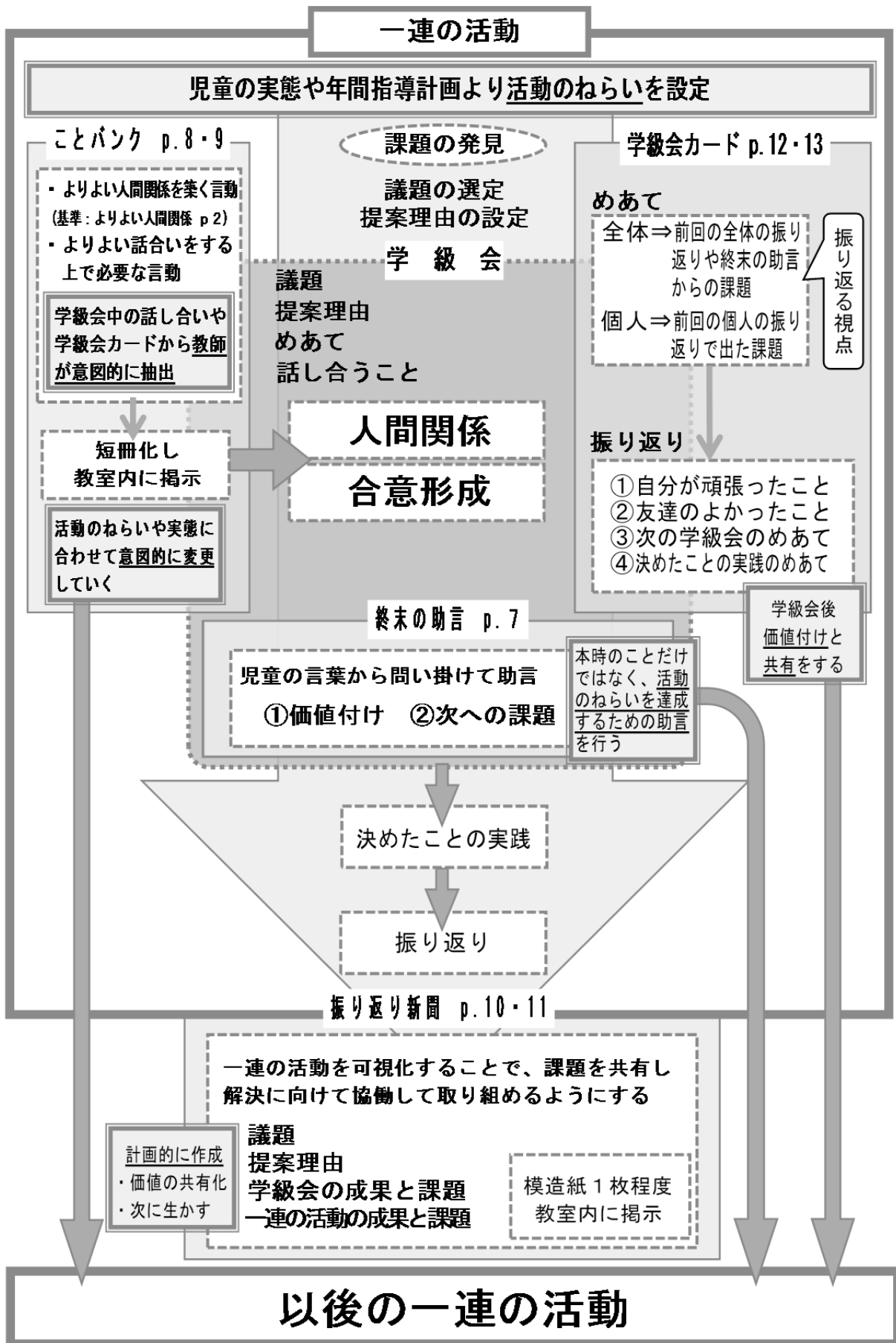
【視点①】

「振り返り➡次の自分のめあて」のサイクルが定着してきた。それまで、何気なく活動していたものが、自分のゴール地点が意識できるようになるので、失敗を繰り返す児童が減ってきている。ただ、課題が多方面に広がり過ぎてしまうと、改善点を不透明なものにしてしまう。終末の助言や学級会新聞では、意図的に身に付けさせた力を絞り、明確な目標になるよう支援が必要だと考えた。

【視点②】

高学年においても、これまでの学級会の経験や実態に応じて、教師の支援は必要となる。その際必要となるのが、課題の反省を次に生かすことをサイクル化することである。そのために、学級会後の終末の助言では、成果と課題を明確に示し、それを「ことバンク」や「学級会新聞」に残し、それらを次時に生かせるよう、また児童に意識付けさせることで、よりよい活動へと発展していく、有効な手段であると考えた。

XII 一連の活動の流れと手立ての関係図



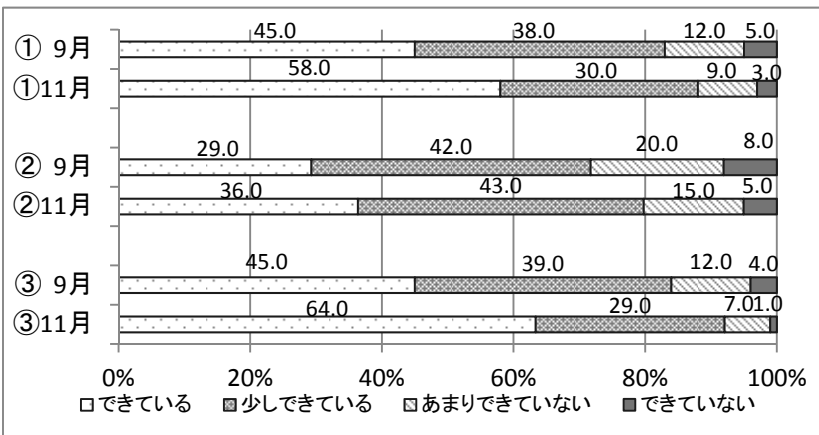
XII アンケートの結果と分析

<よりよい人間関係の形成（自他のよさ）>

質問①あなたは、友達のよいところや、もっとよくなってほしいところを分かっていると思いますか。

質問②あなたは、自分のよさを友達やみんなに出せていますか。

質問③あなたは、困ったり、悩んだりしている人を助けていますか。（記述あり）



質問①は、「思っている」と回答した児童 45.0% → 58.0%へ増加している。友達の長所や短所を認め、一人一人を大切にしようとする思いが強くなっていることが分かる。

質問②の結果からは、自分のよさを自覚し、友達やみんなの前でそれを発揮できている児童が確実に増えていることが分かる。同時に互いを認め、受け入れられるような支持的な学級風土が育まれていることがうかがえる。

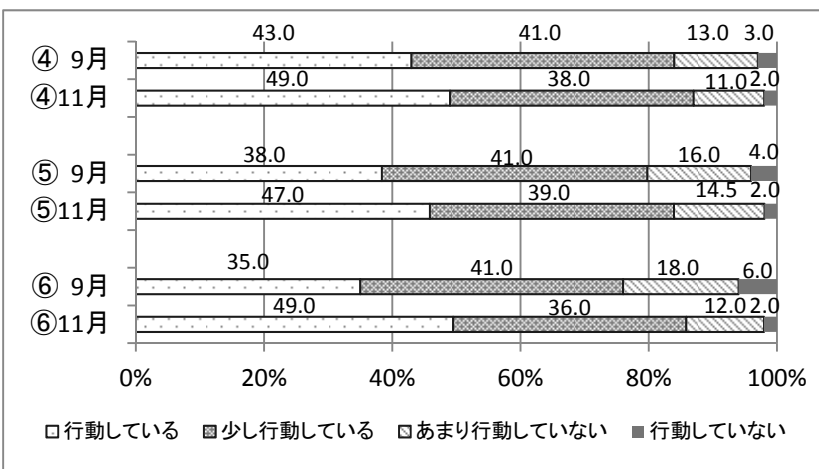
質問③の数値は大きく増加した。その理由は、記述の中にも表れている。助ける理由として、単に「かわいそうだから。」というだけではなく、「クラスを明るくしたいから。」「〇〇小をもっとよくしたいから。」など、対象が身近な友達に偏っていたものが、学年や学校全体にその視野が広がっていることが分かった。

<すすんでよりよい生活づくりに参画する姿勢>

質問④あなたは、自分をよりよくしようと行動していますか。

質問⑤あなたは、学級をよりよくしようと行動していますか。

質問⑥あなたは、学校をよりよくしようと行動していますか。



質問④から⑥までの数値は、どれも確実に増加している。9月に実施したアンケートでは、「よりよくしよう」という行動意識は、学級や学校とその範囲が広がるに連れ希薄になっていた。それが、11月のアンケートでは、逆に学級や学校をよりよくしようと行動している児童の割合の方が大きく増加している。このことは、質問⑦以下のアンケート結果から読み取れるように学級会で

大きく増加している。このことは、質問⑦以下のアンケート結果から読み取れるように学級会で

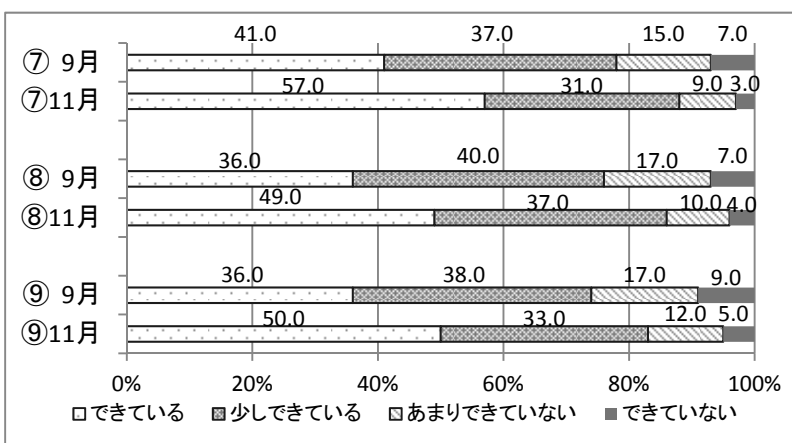
決めたことを実践し、その場面ごとに振り返りを大切にしながら、次への活動へとつなげてきた成果だと考えることができる。

＜振り返りと次の活動や生活へのつながり＞（各質問に対する記述あり）

質問⑦あなたは、学級会で決めた後、活動に向けて自分のめあてをもちえていますか。

質問⑧あなたは、振り返ったことが、その次の活動に生かされていると思いますか。

質問⑨あなたは、学級活動で学んだことが生活（学級、学校、地域など）に生かされていると思いますか。



質問⑦から⑨については、どれも肯定的な回答が増加している。一連の活動を通して、振り返り、めあてをもち取り組む大切さに気づき、その意識が高まっていると捉えられる。

児童の記述からは、「めあてに向かうことでよりよくなる。」「めあてを達成できたときに嬉しいから。」など、振り返りをしたあと、めあてを強く意識して活動できる児童が増えたことがうかがえた。振り返りを行うことで、自分や学級がよくなっていることを実感し、それが次の行動に生かされたり、自己の新たな目標をもつことにつながったりしていることが見て取れた。

アンケートや活動後の振り返りの記述からは、すすんでよりよく生活づくりに参画していく児童の変容を読み取ることができた。例えば、挨拶運動について話合いをした3年生児童の記述には次のようなものが見られた。

「クラスで話し合って決めたことを、みんなでできて楽しかった。活動のめあてを守っていた。」

「自分たちの工夫を、他の学年の友達に褒められて、真似してくれて嬉しかった。」

「前回の反省を生かして元気よくあいさつができた。明るくあいさつで地域をもっとよくしたいと思いました。」

「友達のよさを見付けたり、協力したりすることは、どのような生活にも生かされると思う。」

「今回の3年生のあいさつ運動で出た反省を、次のあいさつ運動につなげたい。」

周囲からの称賛等を学級で共有したり、自分たちの活動が価値付けられたりすることによって、児童は次の活動への意欲を高め、よりよくしていこうという生活づくりの参画へとつながっていることがうかがえた。また、学級会からの一連の活動を通して、児童が自他のよさに気づき、よりよい人間関係の形成にもつながっていたことが分かった。

こうした児童の気づきや変容は、それぞれの場面や活動ごとに振り返りをするによって生まれている。9月と11月のアンケートの結果を比べると「よりよい人間関係の形成」「すすんでよりよい生活づくりに参画する姿勢」に関するそれぞれの質問項目の数値が確実に伸びている。これは、振り返りを大切に、次の活動に生かす実践を積み重ねた成果だといえる。

XII 研究の成果と課題

様々な実践を積み重ねた上で、児童の変容を検証するために、11月の下旬に2度目のアンケート調査を行った。この調査の結果から本研究の成果と課題を以下にまとめた。

【成果】

視点1 振り返りの視点の明確化

【手だて1 終末の助言】

アンケート調査①②③(p21 参照)より、自他のよさや個性を認め合い、一人一人を大切にしようとする思いが強くなっていることが分かった。これは、終末の助言で個の発言を そのときのめあて(前回までの課題)に沿って学級で共有したことが大きく関わっていると考えられる。教師に言動を取り上げられた児童は自己有用感や自己肯定感を感じることができ、他の児童はその児童のよさを見いだすことができたと思われる。

アンケート調査④～⑨(p21、22)より、自分自身や学級、学校など課題を発見し、その解決方法を考えていこうとする意識を高めることにつながったことが分かる。後述する価値付けと共有にも起因するが、それは振り返る視点が明確であるからこそ、児童が主体となって、児童同士が対話しながら課題を発見する手だてとなったといえる。

【手だて3 振り返り新聞】

学級会や決めたことの実践の振り返りを視覚化したことで、前回までの活動の課題からめあてを立てることが明瞭になり、主体的に取り組む意識が高まったといえる。

【手だて4 学級会カード】

アンケート調査①②(p21 参照)より、視点を明確にして振り返ったことで、自他のよさや個性を見付けようとする意識を高めることにつながったことが分かる。

アンケート調査④⑤⑥⑦⑧(p21、22)より、自分や学級、学校の課題を見付け、新たにめあてを立てる意識を高めることにもつながったことが分かる。

各々、明確に学級会カードで示し振り返る経験を繰り返したことで、学級会を取り組んでいる時間の中でも、自然と自他のよさや個性、自分や学級の課題等を見付けられるようになったといえる。

振り返りの視点を明確化したことで、自分を含めた多様な個性を認め、自らのよさを発揮し、自己有用感や自己肯定感をもって、よりよい人間関係を築くことができたといえる。また、振り返ったことが次の活動のめあてとなり、一連の活動そのものからせん階段のようにつながっている仕組みを理解できた。そして、児童が主体となり、対話しながら、よりよい生活をつくる児童を育成することができたといえる。

視点2 教師の価値付けと共有

ことバンクと振り返り新聞に共通していることは、学級会や決めたことの実践の言動を視覚化し、学級全体で共有したことである。この両方で、児童が主体的に課題を発見し、対話的に解決方法を考えることに有効であった。学級会や決めたことの実践を実践していく中で、ことバンクや振り返り新聞に書かれたことを参考にしながら発言する児童も現れるようになった。

【手だて2 ことバンク】

学級会の前後や最中にことバンクを意識して発言することが多くなった。話し合いに行き詰った時どんな言葉で打開できたか、比較した意見で迷った時どんな言葉で決定に至ったか等、話し合いの進行を助けたり、一人一人の言動を大切にしたりすることに有効であった。また、ことバンクに書かれた言動を振り返る場面も、大切な共有の時間となった。それは、自分たちの成長を感じるとともに、残る課題を確認することできたためといえる。

【手だて3 振り返り新聞】

振り返り新聞では、次の活動のめあてを立てるために、自分たちの課題は何であるか、全員で見ながら共有ができた。また、どの課題を解決し成長してきたか、学級の高まりを実感し、所属意識を高めることにもつながったといえる。

【手だて1 終末の助言】

前述した視点の振り返りを明確化し、終末の助言で共有したことにより、個人の気付きだけで終わるのではなく、学級全体で共有することに最大の効果が発揮された。学級会や決めたことの実践を行っている時、学級会カードの記述等、視点に沿って教師が見取り、それを価値付けて共有することで、友達の言動を参考にし、個や学級全体の新たな課題を見だし、解決を考えていく指標となったといえる。

教師が価値付けし、学級で共有したことにより、自分から友達へ、友達から学級へ、学級から学校へ、と課題発見の意識が広がっていった。そして、視点1の振り返りの視点の明確化と併せて行っていくことが最も大切であることが分かった。どちらか片方の視点だけでは効果が発揮されない。振り返りの明確な視点を持ち、それを共有することで、主体的に課題発見し、対話的に課題の解決できるようになる。さらにこの経験を繰り返し行うことによって、よりよい人間関係を形成し、主体的に児童が生活づくりに参画できるようになると考える。

【課題】

- ・アンケート調査②(p21)より、友達のよさを認める学級風土は育まれたが、自分のよさを出すことができない児童が若干名いる。研究をしてきたことで改善が見られているので、継続して取り組んでいきたい。
- ・自分や友達、学級、学校への広まりはあったが、本部会が考えるような他教科における見方・考え方の広がりはずいぶん見られてきているので、より一層活動経験を積み重ねていくことや、意図的に教師が価値付けていく必要があると考える。

平成 29 年度 教育研究員名簿

小学校・特別活動部会

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 有 馬 小 学 校	主任教諭	関根 章浩
新 宿 区 立 西 新 宿 小 学 校	主任教諭	大島 なぎさ
文 京 区 立 関 口 台 町 小 学 校	主任教諭	本多 泰夫
大 田 区 立 東 六 郷 小 学 校	教 諭	兼古 勇祐
大 田 区 立 多 摩 川 小 学 校	主任教諭	中嶋 康介
八 王 子 市 立 東 浅 川 小 学 校	主任教諭	樋口 茜
調 布 市 立 北 ノ 台 小 学 校	主任教諭	関 聡 司
日 野 市 立 日 野 第 五 小 学 校	主任教諭	二本木 基
国 立 市 立 国 立 第 七 小 学 校	教 諭	櫻木 崇史
多 摩 市 立 多 摩 第 三 小 学 校	主任教諭	◎山根 一樹
瑞 穂 町 立 瑞 穂 第 五 小 学 校	主任教諭	須崎 拓真

◎世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部 教育経営課
指導主事 柏崎 康德

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社